

## 国土の保全・水源涵養・景観形成を目指す

新たな農地・  
農業政策が  
始まる

平成18年から始まった「農地水環境  
保全向上対策」事業は3年前から新た  
に施設の長寿命化に関わる支援制度が  
始まり、業者による施工も可能になり

ました。地域住民の共同作業による環  
境保全の基本的な部分と、積極的な環  
境向上対策に大きな力が加わりまし  
た。

平成26年度からは、新たに活動組織  
の形態に関する部分が緩和されること  
になりました。従来は活動団体として  
は、地域主体で農業者のみの団体は認  
められていませんでしたが、部分的に  
緩和されることになりました。また交  
付金の内容も変更されるようです。

今回の変更には伝統的な農業者への  
支援というより、経営改善に取り組も  
うとする地域や団体に手厚くなるよう  
に考えられており、中山間地域の農地  
集約の促進策の強化が一番に掲げられ  
ています。また従来の戸別所得補償に  
ついても見直しが図られます。今まで  
主食用の米生産に対する直接支払とさ

れていたものが、需要に応じて作物を  
作り分けを促すようになっていきます。  
社会全体からみると、農地の持つ多面  
的な機能、国土保全、水源涵養、景観  
形成への支援をより積極的に行おうと  
するものです。  
それらを総合したものが日本型直接  
支払（多面的機能支払）となります。  
農地・農業の持つ多面的な機能に対し  
て農業従事者だけでなく、地域コミュ  
ニティーの活動として「農地が農地と  
して維持される」仕組み作りを目指し  
ています。

当会のように。当初からこの事業に  
取り組んできた組織も、手続きを経て  
新しい枠組みに加わることになりま  
す。現在の試算では、最終的には従来  
を若干上回る交付金額となるとみられ  
ます。しかし、新しい政策の方向に合  
致したものでないと、認められないも  
のが出てくるかもしれません。今後の  
情報に注意したいところです。

## 八方原地区集会を開催します

平成25年度も終わりに近づいていま  
すが、3月9日午後7時より、地区総  
集会を開催します。今回は役員改選が  
主な内容になりますが、当地区では選  
考委員会方式を従前より採用していま

す。委員会ではこれまでの経緯や、諸  
般の事情を考慮して慎重に人選を進め  
ます。ご指名がありましたら、どうか  
快くお引き受けくださるよう、お願い  
いたします。 区長 黒瀬和美



水路の泥上げは下流への土砂流出を防ぐことになる（平成25年5月12日）

## 里山から力をもらって「里山資本主義」

里山資本主義という言葉が聞かれたことがありますか。NHKの番組で時々登場する藻谷浩介氏の提唱する、新しい価値観です。彼は日本政策投資銀行の調査役として日本中を飛び回り、日本の町や村で行っていないところははないというほど、隅々まで歩いています。

産業構造の進化は必ずしも大きな雇用や、従業員の所得の増大にはつながらない事実に出会い、収入だけが、幸



折からの雪で山口県でも指折の棚田景観がよく分かる

せな暮らしを支えるとは言い切れないと考えるようになったのです。自然の中で、その大きなサイクルの中に育まれるように生き方こそ、かけがえのないものであり、それを暮らしの一部に取り入れることが、さまざまな面で本人にも社会にも良い結果をもたらすというのが「里山資本主義」のポイントです。

藻谷氏は周南市の出身です。2月4日、地元の有志の主催で「里山資本主義で周南はよみがえるか」という講演会があり、お話を聞いてまいりました。

藻谷氏は周南市の工場生産額がこの10年間で1.4倍になりながら、従業員は3割以上削減されていると指摘します。周南市の工場生産力は今や、日本国内でもトップ3に位置すると言いますから、生産性の高さは容易に想像がつきます。であるからこそ人員を削減することが必要なのです。つまり、工場が周辺の住民の暮らしを支えてくれる時代は終わったと断言しました。

大都市の行政関係者は、高齢化社会に戦々恐々としています。このまま人口が推移すると東京は、老人の町になることは間違いありません。今の地方

の人口構成が大都市にも及ぶ時代がすぐそこに来ているというわけです。

地方は既にその問題に取り組み、その豊かな自然に活路を見いだせるかもしれないと模索しているのが現状だ、そこに里山資本主義が成立する可能性があるのだと言います。

里山には自然との約束があります。草を刈ったり、山の手入れをしたりそれらは直接的な収入につながるものではないかもしれませんが、穏やかに生きていくために必要な作業です。自然の恵みに対して敬意を払い、お返しをするという私たちが昔から行ってきたことが、大事なことなのだと気づかされます。「こんな田舎暮らしは嫌だ、都会に住みたい。」そうした時代もありまし

たが、次第に変化が起きているという事のようにです。

ゲストの一人に周南市中須北の「棚田清流の会」の会長佐伯伴章氏が出席しておりました。農業体験などの地域おこしで平成22年に農林水産大臣賞を受賞した団体です。

型破りなリーダーで、「評論家はいらん」思いついたらすぐにやる機敏さ、「杖をついてきてくれた人には重要な仕事を任せる」という高齢者の活用、「やりたいものだけがやる」電話での連絡はしない、回覧だけのコミュニケーションというお話はびっくりさせられました。厳しい環境の中で生き生きと暮らしていく知恵なのかもしれません。

八方原地内の公共下水道設置工事が続いています。市道の下に本管を埋設する前に接続用のマンホールの設置が行われているようです。

工事は非常に慎重に行われ、工事用の排水が水路に流れこんだ際に、土砂の水分離槽が水路内に置かれています。それでも流れ出たものを水路の流れの中で流出を抑制するためと思われる土のうの堰が、流れの中に何か所も置かれています。

早くできると良いですね。

## 公共下水道工事が進む



安全確保をしながら作業は続く